

国語科学習指導案

授業者：5年1組 志田原 聡美
2組 教誓 紘子

- 1 学年・組 5年1組（36名） 5年2組（35名）
- 2 単元名 大造じいさんの生き方をさぐろう「大造じいさんとガン」
- 3 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領「C読むこと」の(エ)「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」と、(オ)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」をねらいとしている。そのために、「大造じいさんの人生をさぐろう」という言語活動を設定した。「大造じいさんとガン」で読んだ内容の中から、自分が感じた心情描写が伝わる叙述をまとめる活動を行うことで、優れた表現を味わうことができると考えられる。

教材文「大造じいさんとガン」は、狩人「大造じいさん」とガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる戦いの物語である。構成は、大きく「前書き」と「本文」とに分けられる。「前書き」では、大造じいさんの人物像や物語の背景が描かれており、「本文」は1年間の区切りごとに「1」から「4」のまとまりに分けられ、大造じいさんの残雪に対する心情がどう移り変わっていくのかが描かれている。場面の転換や物語の山場の部分などに、大造じいさんの行動を写す細かい描写が見られ、秋の空や日の光を中心とした自然描写や、戦う残雪の行動描写の巧みさなどが、児童を物語の世界に引き込む作品であると言える。

○ 児童は、1学期「登場人物どうしのかかわりをとらえ、感想を伝え合おう」の単元では、教材文「なまえつけてよ」において、教師の範読を聞いて読後感の中から学習課題を見つけて単元の学習計画を立てる経験をしたり、登場人物どうしの関係を叙述をもとに読んで人物関係図に表し、相互関係や気持ちの変化をとらえたりする活動をしてきた。

平成28年度「基礎・基本」定着状況調査、教科の学習に関する調査（国語）では、次のような結果であった。

内 容	あてはまる (%)		あてはまらない (%)	
	よく	やや	あまり	まったく
(1) 国語の勉強は好きです。	40.3	45.8	11.1	2.8
(10) 国語の授業では、場面のようすや移り変わり、人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら、物語などの文章を読んでいます。	33.3	51.7	15.0	0

「国語の勉強は好きです。」は、通過率が85%を超えた。児童は、学習リーダーを中心に学習に取り組んだり、時間いっぱい自分の考えを話し合ったりすることができるようになってきている。物語文の学習では、場面の様子や移り変わりを読み、叙述から人物の気持ちを考えることにも積極的に取り組んでいる結果と考える。しかし、

国語科領域別平均通過率，タイプⅡ「読むこと・書くこと」の理由や事例を挙げた記述では33%の通過率であった。

また，平成28年度「基礎・基本」定着状況調査の「生活と学習に関する調査」の中から見えてくる協働的に学ぶ児童の実態は以下の通りである。

内 容	あてはまる (%)		あてはまらない (%)	
	よく	やや	あまり	まったく
(18) 授業では，自分の考えとその理由を明らかにして，相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。	31.4	45.7	20.0	2.9
(25) 授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしています。	47.1	35.7	15.7	1.4

これらのことから，国語は好きな児童が多く，意欲的に学習に取り組む姿勢はあるが，知識や技術として身につけていることが少ないことが分かった。話の大体をつかむことはできているが，登場人物の行動や心情を叙述に即さず，想像で読んでしまう児童も見られる。そのため，登場人物の心情や動き，情景を表す表現を見落とすことが多い。また，児童は，読後感から疑問を交流し合い，共通の疑問を児童主体で学習課題として設定することに十分慣れていない。

児童実態からみる課題

【課題となる力】

- 表現のよさや工夫に気付く力。
- 「なぜ中心人物は～と考えたのだろう。」など，物語を読んで疑問に思ったことを解決するために読み進める力。

【指導上の課題】

- 優れた表現に着目した読みの指導が不十分であった。
- 読後感から出た疑問を解決しながら進めていく学習の経験が少なかった。

- 指導にあたっては，単元のゴールを「大造じいさんの生き方をさぐろう」と設定し，はじめの読みで自分が疑問に思っていたことに対して，自分で返事を書く活動を設定する。そのために，児童は大造じいさんの心情に寄り添いながら，本文を読み進めていく。

この課題解決に向けて，0次では椋鳩十の作品コーナーを設置したり，教師による椋鳩十作品のブックトークを行ったりする。これらによって，いろいろな椋鳩十の作品を知り，作者や作品への興味を持たせる。第一次では，教師の範読を聞いて，読後感を「大造じいさんへの手紙」という形で書かせる。その中で出てきた「大造じいさんに聞いてみたいこと」から，学習課題を見つけ，単元の学習計画を立てる。第二次では，「大造じいさんの生き方をさぐろう」という言語活動を設定する。「なぜ大造じいさんは残雪をうたなかつたのか。」という疑問を柱にし，大造じいさんの発言や行動から，大造じいさんと残雪の関係や，大造じいさんの心情の変化について前の場面に戻りながら読み進めていき，問題を解決していく。また，情景描写の見つけ方を知り，そこに着目することで大造じいさんの心情をよりとらえやすくする。さらに，一人読みとして，家庭学習を活用して授業にかかわる内容を事前に自分で考えて来させる。これをもとに学習を進めていくことによって，家庭学習と授業をつなぐことができ，

児童にとっても家庭学習の必然性が生まれてくる。第三次では、第二次で読み深めたことをもとに、「大造じいさんは残雪との話を通して、何が伝えたかったのか。」を考え、作品の主題にせまっていきたい。

協働的に学ぶための授業づくりの工夫として、授業ではリーダー学習を取り入れたりグループでの話し合い活動を取り入れたりする。また、毎時間「自分の A」を設定して、振り返りをさせることで、自分ができるようになったことや分かったことを明らかにし、一時間の学びをより確かなものにしていかせる。

指導改善ポイント

- すぐれた表現に着目した読みをさせる。
- 自分で課題を見つけ、解決していく学習を取り入れる。

【指導の工夫】

- 情景描写について知り、そこに中心人物のどんな心情が入っているのかを叙述をもとに考えさせる。
- 中心人物の行動や心情の変化を読むことで、課題解決のヒントにさせる。

【城北中学校区共通の授業改善の視点】

- ・ J（じっくり考える）… 大造じいさんの心情や作品の主題について、行動や情景描写をもとにじっくり考えさせる。
- ・ H（はっきり表現する）… 家庭学習や毎時間の話し合いの中で自分の考えを叙述をもとにはっきりと表現させる。
- ・ K（繰り返し粘り強く挑戦する）… 毎時間のグループ学習で、話し合いの活動を繰り返し経験させ、時間いっぱい粘り強く話し合わせる。

4 単元の目標・つきたい力

単元の目標

- 優れた表現を味わいながら読んだり，意見交流をして自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉え，優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 (読むこと エ)
- 読み取った人物の心情を発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (読むこと オ)
- 語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもち，場面の様子を想像することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ))

つきたい力

- ◎ 登場人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読み，自分の考えをまとめる力。
- 印象に残った表現とその理由を中心にまとめ，人物の生き方や考え方を伝え合う力。
- ㊦・すぐれた表現（人物の心情や動き，情景など）を味わいながら読み，自分の考えをまとめる力。
- ・人物の生き方に対して，感想を伝え合う力。

第6学年へのつながり

学習指導要領

[C 読むこと]

エ 登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。

5 単元の観点別評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「人物の心情や動き，情景がえがかれた表現に着目し，自分の考えをまとめる言語活動」を通した指導 〔具体的な言語活動：大造じいさんの生き方をさぐる〕		
○ 人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。 ○ 意見交流を通して，自分の考えを広げたり，深めたりしようとしている。	◎ 登場人物の心情を，会話や心情表現，行動を表す文・語句，情景に着目して読んでいる。(エ) ○ 交流を通して，友達との感じ方の共通点や相違点に気付き，自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	○ 語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもち，場面の様子を想像している。(イ(カ))

6 指導と評価の計画

(全10時間 本時☆印)

次	・ 学習内容 (時数) ○ 発問	評 価			
		関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	・ 作者「椋鳩十」について知り、「大造じいさんとガン」の題名読みをする。 ・ 「大造じいさんとガン」の範読を聞いて、大造じいさんへの手紙を書く。 (1/10)	○		◎	・ 作者「椋鳩十」に興味を持ち、題名から物語を想像している。 (発言・ノート) ・ 範読を聞いて物語の全体像をつかみ、場面の様子を想像して読後感を持っている。 (ノート)
	・ つけたい力を確認する。 ・ 単元のゴールを決め、学習計画を立てる。 (2/10)	◎			・ 読後感メモをもとに意見交流をして計画を立て、最終ゴールに向けて見通しを持つようとしている。 (ノート)
二 ☆ 5-2	・ 作品の構成と内容の大体をつかむ。 (3/10) ○この話は、どのような構成で書かれていますか。		◎		・ 作品の構成と内容の大体をおさえている。 (ノート)
	・ 大造じいさんの行動を読む。(4/10) ○なぜ大造じいさんは残雪をうたなかつたのか見ていこう。		◎		・ 優れた表現をもとに大造じいさんの行動を捉えている。 (発言・ノート)
	・ 大造じいさんに寄り添って心情を読む。(5,6/10) ○大造じいさんはどうして残雪をうつ気持ち下がったのだろう。		◎		・ 行動や情景描写をもとに大造じいさんの心情を考えている。 (発言・ノート)
	・ 大造じいさんに寄り添って心情を読む。(7/10) ○なぜ、大造じいさんは残雪との話を「愉快な話」として話したのだろう。		◎		・ 優れた表現をもとに、大造じいさんの心情を理由を明らかにして考えている。 (発言・ノート)
三 ☆ 5-1	・ 作品の主題を考える。(8/10) ○大造じいさんは残雪との話を通して、何が伝えなかったのだろう。		◎		・ 読み深めたことをもとに、作品の主題について考えている。 (発言・ノート)
	・ 読み深めた大造じいさんの心情をもとに、学習した感想を「大造じいさんからの手紙」として書く。 (9/10)		◎		・ 大造じいさんからの手紙を書き、初発の感想と自分の読を確かめながら書いている。 (ノート)
	・ 大造じいさんの行動や生き方について友達と交流し、考えを伝え合い、学習全体を振り返る。 (10/10)		◎		・ 大造じいさんの行動や生き方について自分の考えを伝え、単元の学習を通してついた力を具体的に振り返っている。 (発言・ノート)

7 本時の学習（2組）

（1）本時の目標（第6時／全10時）

大造じいさんの心情の変化を行動や情景描写などの叙述をもとに読み、自分の考えをまとめることができる。

（2）授業の視点

大造じいさんの残雪に対する心情の変化について話し合う中で、自分と友達の違いのの違いに気づき、自分の考えを深められるようにする。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示 (5)	1 単元のゴールを確認し、前時までの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進捗状況を確認することで本時の学習に対しての意欲を高めさせる。 ・残雪に対する「いまましい」と思う気持ちをおさえる。 	
	2 本時のめあてを確認する。 大造じいさんは、なぜ再びじゅうを下ろしてしまったのか。		
	3 振り返りの視点を確認する。 例 A 友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを深める。		
課題の解決 (30)	4 大造じいさんの心情を読む。 (班交流→全体交流) ◎ 大造じいさんは、残雪をうつ思いが高まり、ぐっとじゅうしんをかたに当ててねらっていました。それなのに、なぜ再びじゅうを下ろしてしまったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 残雪にじゅうしんを向けていたときに、突然残雪とハヤブサの激しい戦いを目の当たりにして、驚いたから。 ・ 今までは、大造じいさんと残雪の1対1の戦いだったのに、ハヤブサがきたことによって1対1の戦いでなくなり、今残雪を打つのは、ひきょうだと思ったから。 ・ 残雪が、自分よりも強く絶対敵わない相手だと分かっているハヤブサに立ち向かい、命がけで仲間を助けようとする姿を見て、感動したから。 ・ 残雪が自分の命よりも仲間を救うために戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で考えてきたことをグループで交流させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> J（じっくり考える） ・大造じいさんが再びじゅうを下ろしてしまったときの場面の様子やそのときの大造じいさんの心情をじっくり考えさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・集団で交流する際、根拠を明確にしながつけ加えや反対意見を述べさせていく。 	【読み能力】 行動や情景描写をもとに、大造じいさんの心情を考えとができる。 (発言・ノート)

	<p>う頭領としてのプライドを目の当たりにし、そんな中でうつことは、大造じいさんの狩人としてのプライドが許さなかったから。</p> <p>5 大造じいさんのその後の行動に着目し、残雪に対してさらに気持ちが変わったことを読む。 (班交流→全体交流)</p> <p>◎ 大造じいさんは、その後残雪のもとにかけつけます。そして、P.128の13行目に、「大造じいさんが手をのばしても～」と書いてあります。なぜ、あんなにいまましいと思っていた残雪に手をのばそうとしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いまましい存在から、残雪の行動に感動した後、死にそうな姿を見たことで心配するまで気持ちが変化したから。 ・ 死ぬ直前でも、残雪の頭領としての威厳を傷つけまいと努力する姿を目の当たりにし、ただの鳥に対する以上の感情が芽生えたから。 	<p>H (はっきり表現する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で交流した意見をはっきりと発表させる。 <p>K (くり返し挑戦する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大造じいさんの心情がさらに変化していることを時間いっぱい話し合わせる。 	
<p>まとめ ・ 振り返り (10)</p>	<p>6 本時のまとめ・振り返りを書く。</p> <div data-bbox="248 1133 879 1402" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大造じいさんは、最初残雪のことをいまましいと思っていたが、命をかけて仲間を救おうとする姿に感動し、そんな中で残雪をうつのは狩人としてのプライドが許さなかったから、じゅうしんを下ろし、うたなかつた。</p> </div> <div data-bbox="248 1424 879 1738" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最初、大造じいさんは、残雪の強さに感動してじゅうしんを下ろしてしまったのだと思ったけど、強さではなく命をかけて仲間救う姿に感動したのだという考えに変わった。さらに、大造じいさんは残雪に対して心配する思いにまでなり、心情がどんどん変化していることが分かった。</p> </div> <p>7 次時の活動について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの視点をもとに、振り返りを書かせる。 ・ なぜ、大造じいさんは残雪との話を「愉快的話」として話したのかについて考えさせる。 	

7 本時の学習（1組）

（1）本時の目標（第8時／全10時）

作品の主題にせまるために、今まで読み深めたことをもとにして「椋鳩十は「大造じいさんとガン」を通して何が伝えたかったのか。」について、自分の考えをまとめることができる。

（2）授業の視点

家庭学習であらかじめ考えてきた主題とその理由を交流することで、自分の考えが深められるようにする。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示(5)	1 単元のゴールを確認し、前時までの振り返りをする。 2 本時のめあてを確認する。	・学習の進捗状況を確認することで本時の学習に対しての意欲を高めさせる。	
	椋鳩十は「大造じいさんとガン」の話を通して、何が伝えたかったのか考える。 3 振り返りの視点を確認する。 例 A 友達の考えとの共通点や違いを見つけ、自分の考えを深める。		
課題の解決(30)	4 主題を考える。 ◎ 椋鳩十は、「大造じいさんとガン」の話を通して何が伝えたかったのだろうか。 ・【仲間を助ける勇気を持つこと】 P. 127 L6～7「残雪の目には～仲間のすがたがあるだけでした。」から、仲間を思う気持ちは人間も動物も同じ。大切な仲間が困っているときには、勇気を出して声をかけたり手をさしのべたり、自分のできることをやってみようということが伝えたかった。 ・【動物と共に生きていくこと】 大造じいさんは残雪に対して、1 場面では「いまましい」「たかが鳥」と言っていたが、3 場面では「ただの鳥に対してのような気がしませんでした」、4 場面では「ガンの英雄」と変化している。今まで、動物は生活するための手段として見ていたが、残雪との出会いによってその気持ちが変化したことが伝えたかった。	・家庭学習で考えてきたことをグループで交流させる。 K（くり返し挑戦する） ・主題に迫るために、グループで時間いっぱい話し合わせる。 ・叙述をもとに考えを述べさせる。 J（じっくり考える） ・家庭学習で考えてきたことをもとにして、主題をじっくり考える。 ・グループで出てきた主題を短冊に書いて、黒板に貼らせる。 ☆大造じいさんの人物像や職業から考えさせたり、似ている考えを見つけさせたり	【読む能力】 交流したことを生かしながら、主題に対する自分の考えをまとめている。 (発言・ノート)

	<p>5 全体交流する。 ◎ 班で交流したことを発表しましょう。</p> <p>・【どんなときも命の大切さをわすれない】 3場面では、大造じいさんは残雪をうつチャンスが何度かあったのに、じゅうを下ろした。ここで、大造じいさんの残雪に対する気持ちに変化があった。残雪の仲間を守ろうとする姿から、動物でも人間でも、むやみに命をとらず、命を大切にすることが伝えたかった。</p>	<p>しながら話し合いに参加させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>H (はっきり表現する) ・グループで話し合った意見を、叙述をもとにしてはっきりと発表させる。</p> </div>	
<p>まとめ・振り返り (10)</p>	<p>6 本時のまとめ・振り返りを書く。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>私は、椋鳩十は「大造じいさんとガン」の話を通して、「動物と共に生きていくことの大切さ」が伝えたかったのだと思う。理由は、大造じいさんはかりゅうどなのに、残雪をうたず最後は放したところから、動物も人間も同じ一つの命を持っていて、精一杯生きることが共通していると考えたからだ。だから、共に生きていくことが大切だと伝えたかったのだと思う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>交流を通して、〇〇さんの「困ったときはお互いに助け合おう」という考えに納得した。根拠の文は同じだったけど、違う考え方を見つけられ、自分の考えが深まった。</p> </div> <p>7 次時の活動について確認する。</p>	<p>・交流したことを生かし、自分の考えをまとめさせる。</p> <p>・読み深めた大造じいさんの心情をもとに、学習した感想を「大造じいさんからの手紙」として書かせる。</p>	